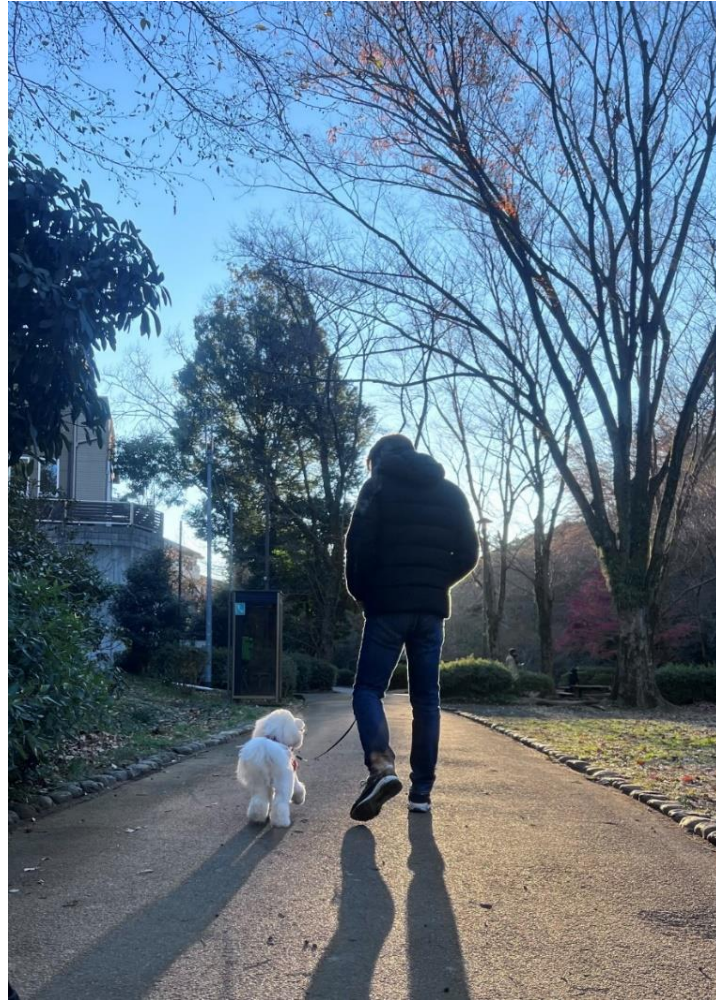




みんなでつくる町田の景観



市では、2024 年 3 月に「町田市景観計画」を改定し、景観づくりに取り組んでいます。市の景観づくりの取り組みについて知りたい方は、市ホームページをご覧ください。（右下QRコード参照）「町田市景観計画」等の冊子は、法務課(情報公開係)で販売しています。

みんなでつくる町田の景観

- 発行年月日
2025年3月
- 発行
町田市都市づくり部
地区街づくり課街づくり景観係
町田市森野 2-2-22
電話 042-722-3111(代表)
- 刊行物番号 24-79
- 印刷
株式会社イコープリント

景観づくりで



<景観に関するHP>



この「みんなでつくる町田の景観」は、2024年3月から11月まで、「私が好きな暮らしの風景」として市民の皆様からお寄せいただきました写真とともに、町田市景観計画にも掲載している町田市の景観に対する考え方を紹介しているものです。

この冊子は、500 部印刷し、1部あたりの単価は 540 円です。（職員人件費を含みます。）

生活風景に魅力と豊かさを感じられるまち

市の景観の特徴となっている、「自然景観」、「まち並み景観」、「文化的・歴史的景観」、「生活・活動の景観」は、どれも市民の生活と深い関わりをもちながら育われ、人々とともに生まれてきた「生活風景」です。

市では、そうした「生活風景」を市民が主役となって守り、つくり、育てていくことにより、市民だけではなく、市に関わりをもつ人、市を訪れる人も含めて、「生活風景に魅力と豊かさを感じられるまち」を目指した景観づくりに努めます。



「景観」とは、建物やまち並み、山の稜線、道路、木々のみどりなど、普段目になっている「風景」や「景色」を人々がどのように認識しているかを表す言葉です。

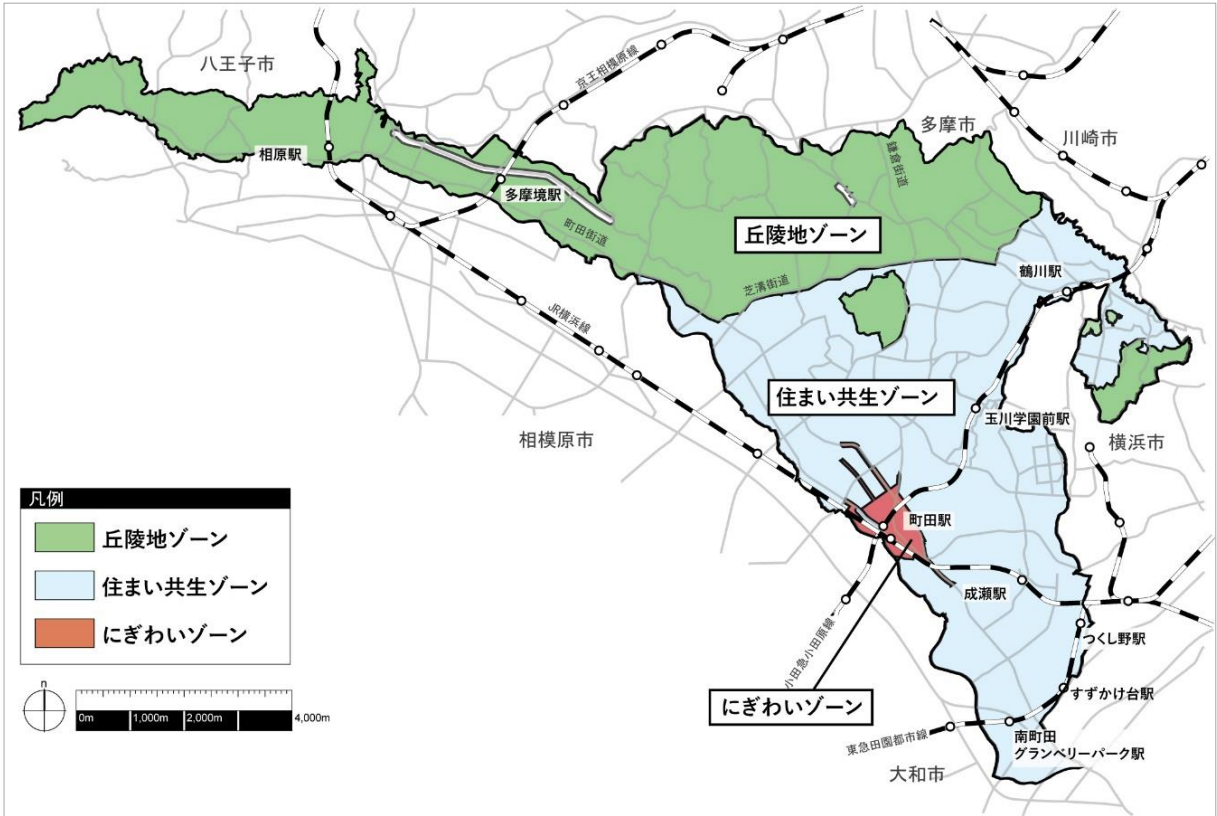
景観は、見た目の美しさだけでなく、そのまちの表情や個性といった「健康度合い」を表し、その場所の風の感触や、草木の香り、地面の踏み心地、賑わい、日差しの暖かさ、なつかしさ、安心感など、五感で感じる様々な感覚や、地域の文化風土とも深くかかわっています。



地域の特徴にあわせたきめ細やかな景観づくり

景観形成ゾーン

市の地形や自然、まちの成り立ちなどの景観上の特徴から、市内に 3 つの景観形成ゾーンを設定しています。



市全域における景観づくりの考え方

町田らしい「生活風景に魅力と豊かさを感じられるまち」を実現するために、ゾーン共通で下記の考え方に沿って、景観づくりを進めていきます。

①場所の特徴を活かす。

その場所らしさが感じられる景観をつくるため、計画地周辺の地形や地域のまちづくりの状況などを捉え、場所の特徴を活かした景観づくりを目指します。



②周辺環境やまち並みとの調和を図る。

周囲の建築物やみどりと馴染む配置や意匠、色彩、外構にすることで、周辺環境やまち並みとの調和を図ります。



③道路等の公共空間からの見え方に配慮する。

積極的な沿道緑化をはじめ、地域の歴史資源や自然資源の眺望保全、設備機器等の配置の工夫などにより、道路等の公共空間からの見え方に配慮します。



④人々の交流や活動を促すような空間をつくる。

道路などの公共空間と連続したオープンスペースを確保し、人々の交流や活動を促すような空間づくりを目指します。



⑤人の目線(アイレベル)からの景観を丁寧につくる。

通りなどのパブリックな空間に面した建築物の低層部や外構の設えについては、人の目線から「開放感」や「にぎわいの創出」、「うるおいのある演出」を意識したものとし、出歩きたくなるような景観を目指します。



◇丘陵地ゾーン

市の北西部に連なる丘陵地の尾根筋は、町田を象徴する景観の一つとなっており、丘陵の間には多くの谷戸が形成され、斜面の豊かなみどり、谷戸に広がる農地、湧水などから形成する水辺の景観など多くの資源が残っています。また、歴史・文化的な資源も残り、里山と一体となった景観を形成している地域です。

丘陵地の地形を活かし、尾根の稜線や、斜面の緑地の眺望を保全するとともに、地域のまち並みや、歴史的・文化的資源などの特性を尊重した景観づくりを行います。新たにつくられる建築物などは、地域の資源や周辺環境に調和したものとし、丘陵地のみどり豊かな生活風景を形成します。

①身近なみどりと丘陵地のみどりを活かし、みどり豊かな景観づくりに努める。

主要な尾根筋や斜面のみどりの連続性を大切にし、道路などの公共空間から見える位置へみどりを誘導するなど、丘陵地にふさわしい景観の維持と、丘陵地のみどりを意識した景観づくりに努めます。

②歴史的・文化的景観資源や、まち並みの特性を尊重する。

尾根や谷戸の多様な地形や、寺・神社などの景観資源を活かした景観づくりを目指します。また、これまでに培われてきた地域の特性や歴史を損なわないように配慮します。

③農やみどり、水辺との関わりを楽しめる景観づくりを目指す。

谷戸や里山においては、農やみどり、水辺の環境を活かし、住民や訪れる人が季節の変化や体験を楽しめるような景観づくりを目指します。



<目指す屋外広告物景観>

丘陵地や谷戸の豊かな自然と調和した屋外広告物景観

◇住まい共生ゾーン

地域の成り立ちごとに個性のある低層住宅街の景観、中高層建築物による住宅団地の景観、幹線道路沿いや駅周辺の商業施設や集合住宅による景観など、さまざまな景観が見られます。また、それぞれの地域に、まとまった緑地や樹木、並木道、歴史的な寺社・仏閣、文化財、見晴台、河川や湧水地など多くの景観資源を有しています。

これまでに培われてきた生活風景を尊重し、それぞれの地域の特性である個性あるまち並みや、景観資源を活かした景観づくりを行います。また、新たにつくられる建築物は、既存のまち並みや、生活風景との共存を図ります。

①魅力ある低層住宅街の良好な景観づくりを目指す。

それぞれの住宅地の持つ特性や個性を活かし、これまで培われた生活風景を尊重した景観づくりを目指します。

②ゆとりある住宅団地の景観を活かし、みどり豊かな景観づくりに努める。

中高層建築物による住宅団地の景観は市の特徴の一つです。団地内のみどりやオープンスペースを大切にするとともに、そのみどりやオープンスペースとの連続性、調和に配慮した景観づくりに努めます。

③商業施設などと住宅地とが調和した景観づくりを目指す。

駅周辺や幹線道路沿いの商業施設などが、周辺の住宅地と共存し、相互に配慮した景観づくりを目指します。



<目指す屋外広告物景観>

落ち着いた住宅との連続性が感じられ、地域・商店街の個性を活かした屋外広告物景観

◇にぎわいゾーン

町田駅周辺は、幕末の頃から生糸の生産地と横浜とを結ぶ街道「絹の道」の要所として栄え、現在も市内外から多くの人々を集める商業の拠点として、「商都まちだ」を特徴づけるにぎわいのある景観を形成し、さまざまな要素が入り混じり個性的な魅力を有しています。

町田の顔として、歴史とともに受け継がれた町田駅を拠点とした活気やにぎわいのある生活風景を活かします。回遊性を高めるとともに、まちかどのみどりや広場などのくつろぎの場の創出により、ゆとりやうおいが感じられる交流拠点としての景観づくりを目指します。

①昔ながらの変わらない魅力を残しながら、活気とにぎわいある景観づくりを目指す。

町田駅周辺では、時代とともに姿を変えながらも、昔ながらの通りや商店が残り、生活風景の歴史が感じられます。これらの魅力を活かしながら、活気とにぎわいのある景観づくりを目指します。

②人の目線(アイレベル)を意識し、まちの回遊性を高め、一体感のある景観づくりに努める。

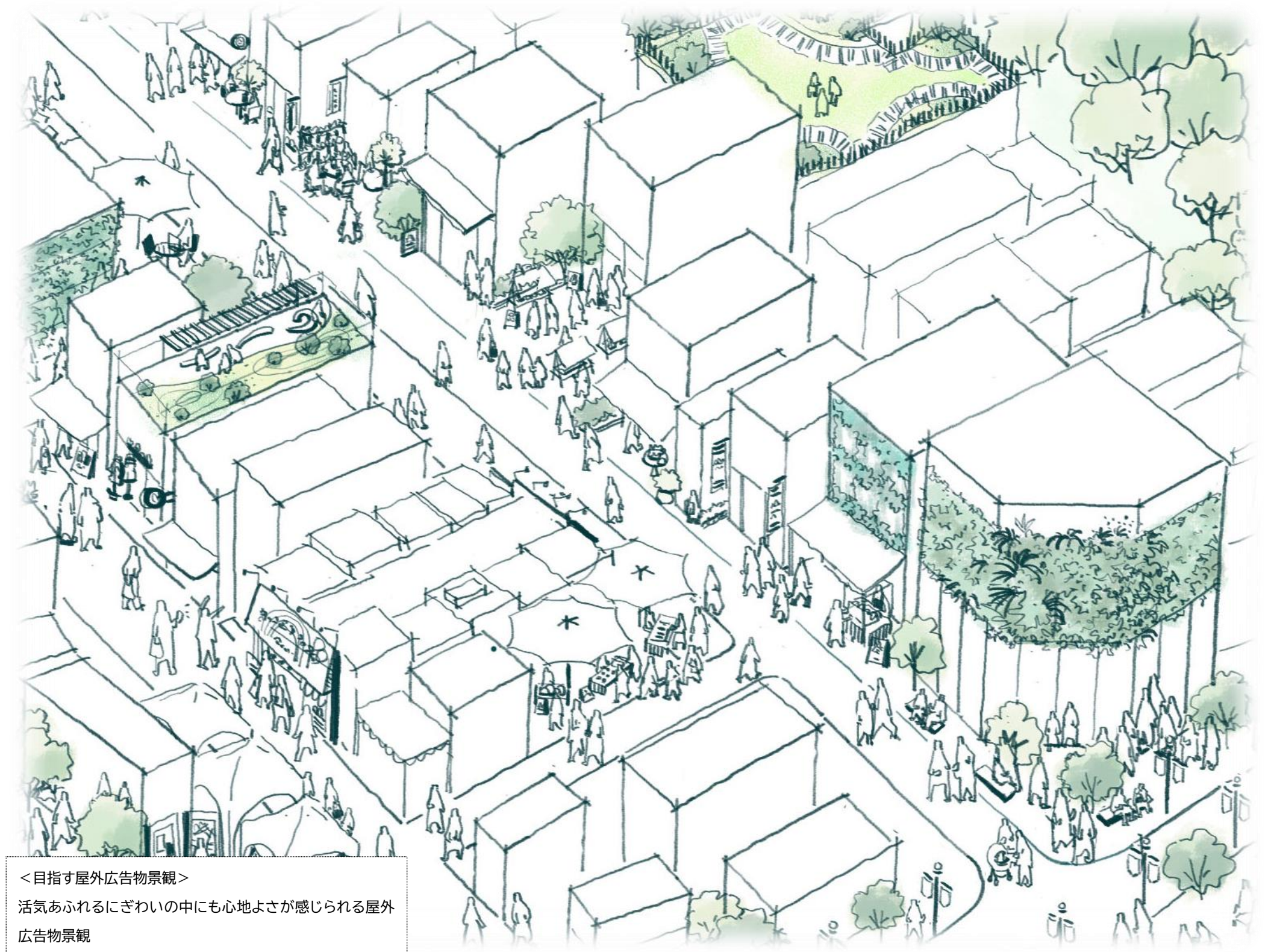
人の目線(アイレベル)を意識し、原町田大通り、原町田中央通り、文学館通りなど、それぞれの通りごとの魅力や、まちの回遊性を高め、まち全体の一体感やつながりの確保に努めます。

③多くの人が集い、快適に楽しめる景観づくりを目指す。

だれもが快適に過ごせるようオープンスペースを創出するとともに、樹木や草花を植栽することで、居心地がよく楽しさがあふれる景観づくりを目指します。

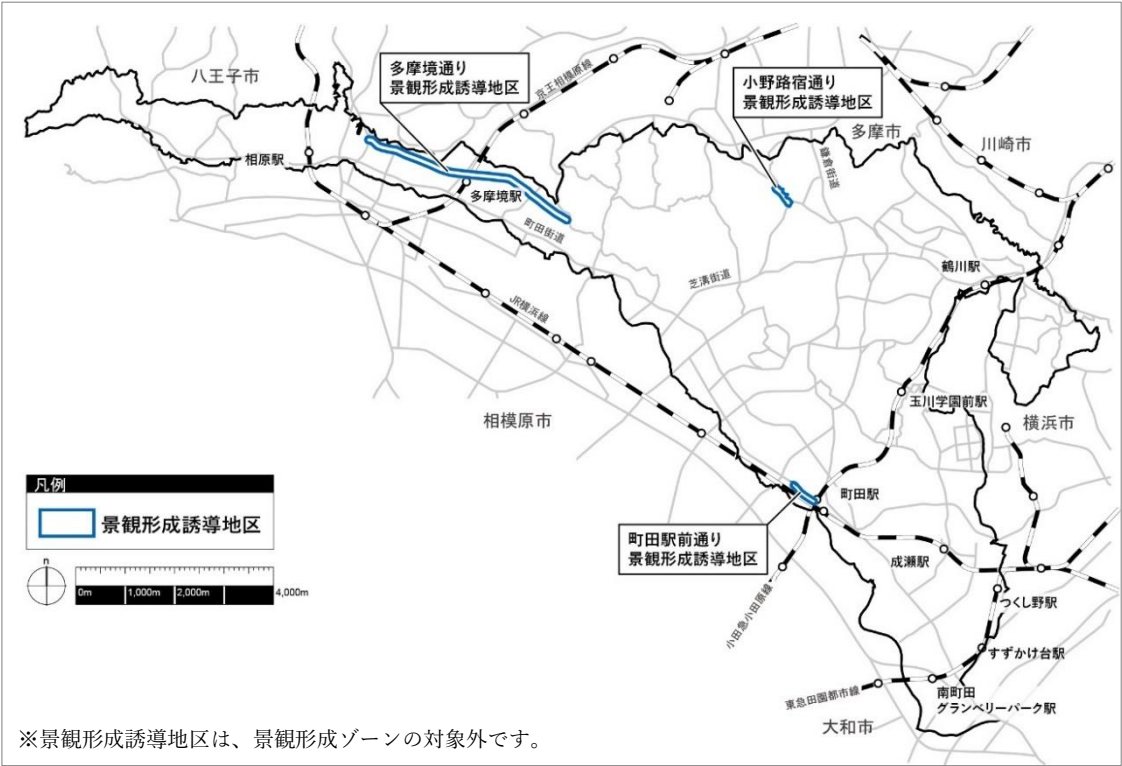
④うるおいのある都市景観を形成する。

主要な通り沿いや、芹ヶ谷公園、境川などの周辺の景観資源へのアプローチとなる通り沿いでは、オープンスペースを創出するとともに、通りに面した場所にみどりを配置し、ゆとりやうおいの感じられる景観づくりを目指します。



景観形成誘導地区

地区の特性に応じて、きめ細かに景観づくりを進める地区として、3つの地区を景観形成誘導地区に設定しています。



◇小野路宿通り景観形成誘導地区

鎌倉時代から江戸時代にかけて栄えた宿通りを中心とする区域を対象とし、当時の面影を活かした景観づくりに取り組む地区

歴史的なまち並みを後世に伝えるため、その姿を保全再生するとともに、通りの安全性や快適性の向上を図り、通り中心に活気や交流を深めます。また、地域の伝統的なまち並みを尊重し、自然豊かな丘陵地や歴史的な景観との共存を図り、宿通りの面影を活かした景観づくりを目指します。



◇町田駅前通り景観形成誘導地区

小田急町田駅から市庁舎をつなぐ町田駅前通りの沿道区域を対象とし、秩序あるまち並みを形成し、人の目線に立った景観づくりに取り組む地区

市役所や市民ホールと町田駅(小田急小田原線)とを結ぶ通りとして、落ち着きと秩序のあるまち並みの形成を図るとともに、歩行者の目線に立って魅力のある通りづくりを目指します。

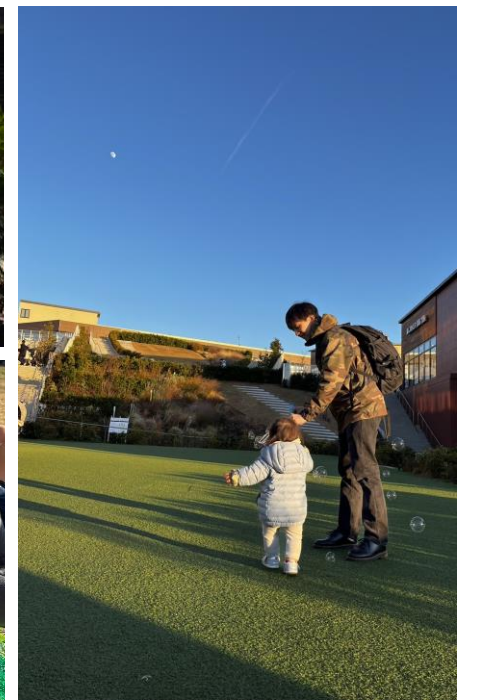


◇多摩境通り景観形成誘導地区

多摩境通りの沿道区域を対象とし、丘陵地ゾーン内において都市的な景観を形成する通りとして、活気やにぎわいのある沿道景観づくりに取り組む地区

丘陵地や斜面の緑地を活かすとともに、車の交通や歩行者に配慮し、活気やにぎわいの中にあるおいやゆとりが感じられる沿道景観を目指します。





市民の皆さんのお気に入りの景観を 集めました！

歩いたり、遊んだり、活動したり、日々の生活の中で撮影された

写真により「暮らしの風景」を感じることができました。

町田市の景観は、長い年月を経てつくられてきたものです。

これからもこうした景観を保全し、育むために、
どんなことができるか、市と一緒に考えていきましょう。

